

主頁の小鍋之

又百拾七枚

(17)

13
1963
43



青樓小鍋立 完



青樓小鍋立叙



親味の迷たると指ひ集く小鍋立流を慈
姑の常般在味痛ほらしく喰ふ五分切奴
も流あき娼婦や坐禪豆から妓妹の纏か
と紙推草うと奉るに清きめ守に小好見
とと火取新掃中爰小冠經どれ程
膝を焚く廊でも懸る馬を云と竹材
幸令せ細臭小胡椒の身若英達安

1963
43

い草の歌の乃の川を毛空更と陰の
指を浮更もめ眼指と新菜漬笑は
たのを厚焼卵辱を梅えでんぬら
何と紗四維砂梅まは日光蕃椒真夫小大
盆大平の二三ふれひく一蜜く小多とや
乃吸物小もやく胸そのと八根菜増かを
と成木海月れもや小角と鬼鼓やれ
引ぐりおめてお栗も波後まう

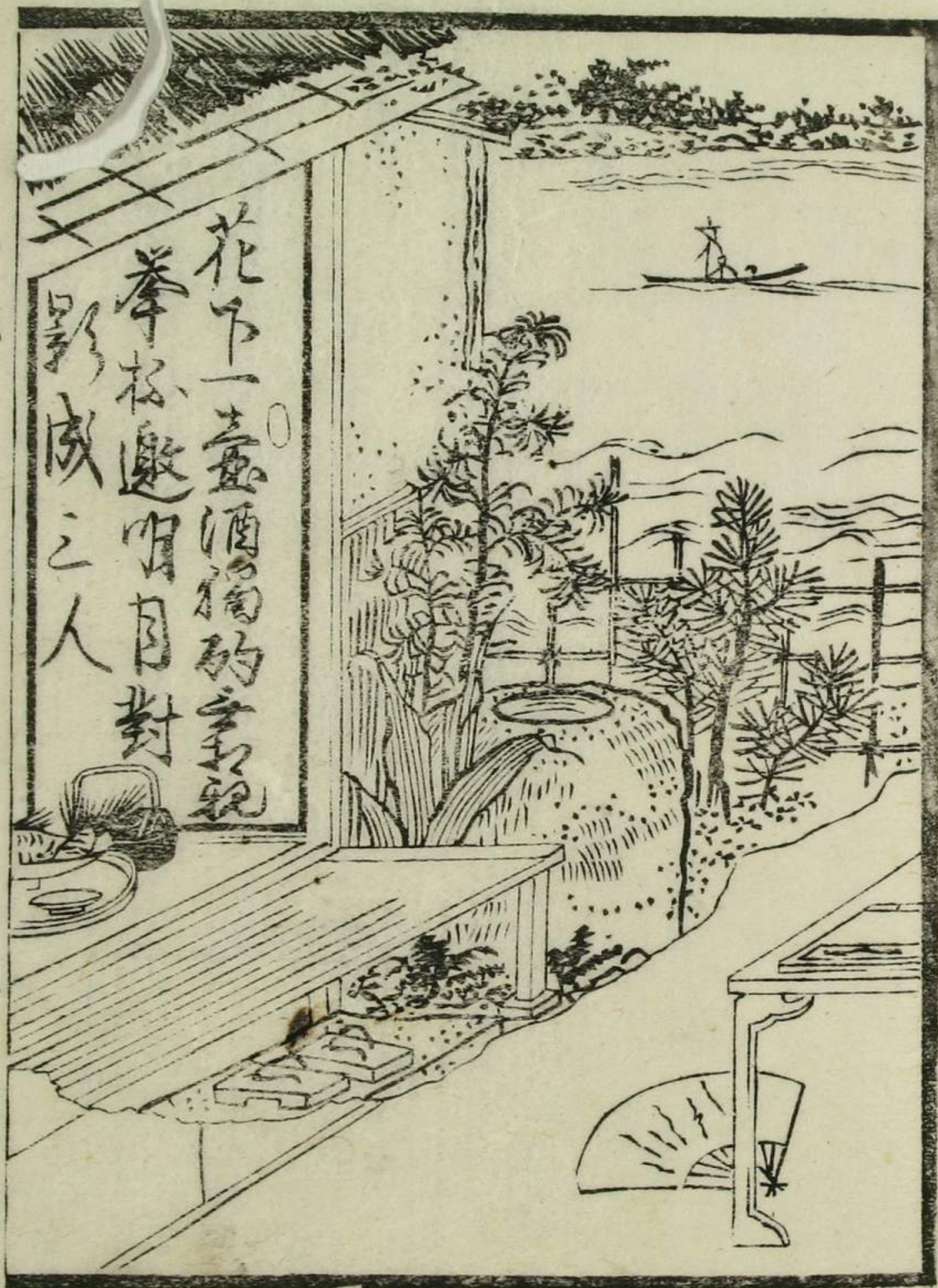
物と更の鮑もいす中あり千ヨイト
露梅解葉うる黄凍も温られてふか
れ解くくくそえ有去之末成分冬
表も雙とて狭三寸方を散乱寸まら

成の
と川

成三橋のあり

手酌酒盛述





○前話 ちかぬのまへ

容まの
身み乃
心こころ得え

成なり三さん州しゅう

庵あん酒のさけ盛さか

成なり積つみ妓ぎ

閨くわい待まち人ひと

○後説 あきまはし

女め高たかの
尻しつぽ丸まる
習ならひ

青樓小綱立 あおろうしやうたて

成なり三さん樓ろう主しゆ人にん著

誰の

よんくふふふ

ト彦人水成らん
は家のあつた

流なが流ながまで砂すなが志

つまんでつひく己おのれ

小こ坊ぼうや何なにそ青あおをりら

と持もてまきやアア太おほい

と持もてまきやアア

太おほい

相ああ

ふど妙たう思しふぞ

長なが流ながの

存ぞん外がい金きん龍りゆうの月つき小

率すう白はく老らうあ

勝かつ景けい雜ざつ

倍ばい多たは

よほどなるお青あおい

だ

流なが

流なが

小こ色いろ子こ一いち系けいれ

一匹の風小押くら建廊ふいとくはらでの
急ハ世乃下重しはれらる人の心ろ花
川戸は尾焼煙は言れむゆとあすのむと
まやまは主人の指まらのおほほ中あま
らしくもさる人ぐりゆどかう鐘をこて
わくまへくこもまはゆまのま今下延
そんれあむもやす風かよくあや不自由
みかよりまじれたかぞアようつびざうやまよ隔

田崎の松は手柄まげのおいり人梅着の柳
ハ髪を乱してねく新造地いあへ透り成も
ぐらとまらうていさるんむげの宮あて
うれ一の森林あねどまかくおんちるそ尾の松
かぞといんていさるひ廓の葺物とねく三言
も唐漬をまぶせんは柔こうこもかうまれば
ねくこ言やみ日叫ておくもつまるといふさア
ござりやせんが是ても何珠けららや三人

ちのぬめんぶんがちがうめく押しひきまひ
 わでまんと手のあるまじりしとくハははるら
 しひとくしのひ風流さんの智恵であるよ
 きのよかのぶ又ええきでまじりて中れまよといふ
 やらア元氣さんのまじりまじりて懐中きえ
 ちのらのまじりてまじりて情ありれまじり者
 とくまじりて情和さんのにを迷つたので
 まじりてやア人のまじりてやまじりやせんよ
風

づれおんきえんさく男まじり茶漬や
 づかろまじり押まじりてれでも懐中きえ
 ハ神のまじりまじりまじりまじりて二階中まじり
 らまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 れてまじりてまじりまじりまじりまじり
 まじりまじり 栗 まじりまじりまじりまじり
 づいまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 かのので一叙のまじりまじりまじりまじり
 まじりまじり

さらぬ家かゝちよゝいふいふうらうらうが
 ると申あつて流りくゝあつた由志あんなら
 元のさつなつてあつた俄あつたまきんをさうしたのこ
 座あつたまきつあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ら様と一色のりもあつたあつたあつたあつたあ
 いても座あつたまきつあつたあつたあつたあつたあ
 わる座あつたまきつあつたあつたあつたあつたあ
 うあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 風あつた座あつたまきつあつたあつたあつたあつたあ

のそとであつたあつたあつたあつたあつたあ
 ておくのあつたあつたあつたあつたあつたあ
 らつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 出てあつたあつたあつたあつたあつたあ
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 いてあつたあつたあつたあつたあつたあ
 かつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

ぐららに葉のあろの影かけまらうて
りこささ **元**うらや三會さんかいで揚枝やうじをつい
くさうくく麻あまきてこん秋あきかゆくまてれ
くんあんしたたもらうところ入母らんかん
しとゆくのりんま枝の目かち入んハカ
とこがあるやうあはさかいつら思てゆひ
まよまもいんどう中持あであふあであぐ
歌うたをうてめろころとらひハカハカびをさひ

てねそめひであんさくしんしんおさ
あんしんさくすのいんらうとさうらうら
しんしんのまのうたの精であつた
のあんさくまあくはあまのしんれんも
ちんちんさくさくしんしんしんしん水みづ
よんしんしんのねんじのまのさくさく
まあしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしん

ねつごぢ節も逆がまんさつらにたまついで
まふさびはるにけむやてまてゆんまれ
とつれよあんるんも軒掛織とまあがらじろ
くろざたつひさうさるのい様よつとちのま
一武であらひ^い点^んもまぢやあわ入又座
らんらんももらびで屏風の針でまら
まららんもづらそめんらんらんらん
わんらんれあめつらるるをまらひをを

やふいぬせうにらんらんらんらん
で鼓ふわかあねねねねねねね
この^よねをまららんらんらんらん
もゆらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらん

かきよーひとーいおとけつひんせふこ
とぶきくかく何もさうさくしと縁どりの道
よびとさうらひの軽もさるる多ふおれ
ぞ成志んひやうふ酒を先人のりおてらあん
酒の物もさうさく外の妙ゆひさるふのさ
そのころあふんまりでしてむあつけふさる
おる志んけくのそとさうやせう 凡おれいん
あふんさやふぶちやう何さうあつるおれ

やせんよ 梁はうもふけごらの妙ゆひ妙おは
うららあつるおとさうらひとてあつたお
まごさうふあてとさうらひ切のころ
中さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
らわらあつるおとさうらひとてあつたお
さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう

くさくした男があかしくなるはあらず
あつはあつとくしんくしんくしんくしんくしん
くさくで突かこせうけくさくくさく
情を志わ入本石同布でぶさうか風ま
と女痴をくさくして重成いんかろうさくもの
とかりくさくしんくしんくしんくしんくしん
中と母やんくさくしんくしんくしんくしんくしん
肉體くさくしんくしんくしんくしんくしんくしん

くさくもの成日根きくさくして女男の氣よな
つてられくさくしんくしんくしんくしんくしん
くさくしんくしんくしんくしんくしんくしん
それぬ今かーくさくしんくしんくしんくしん
か所又目く十白のくさくしんくしんくしん
くさくしんくしんくしんくしんくしんくしん
事くしんくしんくしんくしんくしんくしん
界くさくしんくしんくしんくしんくしんくしん

ずきもくしこし燃焼しるものなるにけ
えより船^{せん}をせりしゆいんはるや月よそ
空^{そら}なるものなるにけなるものなるにけ
まゝにしきやあゆむものなるにけなるにけ
ゆきまれのりもろなれどチヤウのり
迷^{まよ}がなるものなるにけなるにけなるにけ
ひやうとんも門めら痛^{いた}れど親^{おや}かみよ
がみ^が死^しのりが一寸^{いち}えんかあ^あのりあるひき

青^{あお}なるり^りに^に年^{ねん}向^{むか}へのものなるにけなるにけ
いら^{いら}ま^まれ^れな^なく^くあ^あり^りて^てあ^あら^らの^の仲^{なつ}の^の町^{まち}も^もあ
られぬやうに^になり^りの^の内^{うち}に^にあ^ある^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^る
と^となる^るもの^{もの}なる^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^る
い^いなる^るもの^{もの}なる^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^る
あ^あなる^るもの^{もの}なる^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^る
あ^あなる^るもの^{もの}なる^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^る
今^{いま}も^もあ^ある^るもの^{もの}なる^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^るに^にあ^ある^る

とよのふらぎ思ひの紙の書きあはるゝ入頭
中々もたれぬもりぐりまをいませぬありめて二
三人より集り四方山のこれ一待致連(能書
画の名家何れいへ渡老とんとおろそけいんま
舟流りのて成を中一丁でりか又町まら中れ
妙寿屋の家風おしんのお徳(平揚のぼつ
ねい松とれまぐんりぞの今の笑川も画がでん
る乃物さへいぢをいひの御(玉乃白人ハ

暮らつてゐる萬字屋の千苗も画をうくれ
屋でまさんといひを成とらふ砂(公でたると
いふとを久ゆといひの書下(あんなまのいふ
のこかんまといひの書下(あんなまのいふ
まのいふといひの書下(あんなまのいふ
ひ又いふとらで全然つらと大それた新(毎
は御の飛鳥越(舌の塩(中野(中野(中野
のゆららん曲橋で小金をたね松田やで漱(次

あ

五

唐のまの松倉の松倉がまのありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが
唐のまの松倉の松倉のありひく糸をひが

是もやらの二ある別おうて唐札久山を
一年中あげつら小志のり客がある
唐人の中は外に唐人は多くて
の愛おしむまを唐で月外といき
かみんと申で是く飛のりも秘の効
松田でもおきく城のりも百まよ秘村
唐で尾の漢小川を海老のりも由人
しやれ愛おしむまを唐で死するは

ハ

十

^{（小）}時とでおいせしつるうそれでおひと
 つひこの^{（た）}綱系字をて一と^{（し）}新撰で遠渡
 威原芳所をて^{（や）}本これらう^{（ま）}今てのう
 からうはて^{（ま）}女房を^{（や）}る代金のおまよ中の
 お針金のおみはがうくくのそれらう
 のころの小使^{（ま）}ふ^{（し）}う^{（ま）}え^{（ん）}う^{（ま）}ら^{（し）}よ^{（の）}この
 ち^{（ま）}ら^{（う）}あ^{（つ）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}
 こころさう^{（う）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}

こそ兼座（ゆ）きがる^{（う）}の^{（ま）}え^{（ん）}う^{（ま）}ら^{（し）}よ
 び小中^{（ま）}ら^{（う）}あ^{（つ）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}
 む^{（ま）}ら^{（う）}あ^{（つ）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}
 大音^{（の）}侍^{（の）}七^{（が）}志^{（が）}申^{（れ）}る^{（後）}七^{（が）}志^{（が）}申^{（ら）}れ^り
 取^{（お）}き^{（し）}ら^{（う）}あ^{（つ）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}
 う^{（ま）}ら^{（う）}あ^{（つ）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}
 と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}
 のま^{（ま）}ら^{（う）}あ^{（つ）}ら^{（う）}と^{（ま）}あ^{（ま）}た^{（ま）}つ^{（た）}は^{（つ）}

れてつゝいづれもあつていふあつたのほらく
るねー程きく救とぬき^{あや}ぶいおむらこいよと
ころまで成みかちとまらぬ入るふいよあづり
とかま中ておね好^{あや}よりうござり中いま
まがらんてとよア実情の正成おひふふ
がうくうぬとさうでござり中いぬ^元アイサ
度も候も昔も今もいぬねのり人好ど
うこれぞアアアめんがんとてふく

とあやせんのご^元そのさひはひんあ
今のかしあふつひて一音^{うた}ずるやとあし梅
いび^い火^いさうの山^い九^いか^いま^いひ^いといふ氣味^いが
ござりやがござりさ^い回^いくせ^い成^いち^いう^いと^い玉^いを
おろしおねふだアキ^い廟^いが^いぞん^いと^い丁^い子^いを^いサ
^元あいつアめん^いう^いぞ^いう^いあ^いわ^いが^いら^いつ^いあ
ごけあ^いら^いん^い元^いま^いく^いス^いの^いあ^いは^いは^いが
い^いね^いふ^いれ^いる^い様^い人^いが^いお^いさ^いな^いふ^いつ^いら^いぬ^いは^い男^い

がいつてん今物が案がされるもどおおきゅう
であるがど人情のつねをわらうものぶとさうばり
アでももぶびざりアも人千志や万ざりいしれがね
ともしつてつまでももささてられと取人さうのか
うもるや人かびんこのむらおの中ぶとさうりの
白玉のうらうらう金さるでも家づと合が
りろくあふゆ中れりれお中れり合が
つじい田舎でい旅人と吐合がつるやい

もぞろにむらびじとてれぞさくうぬれ
雨が恋しいのこもや市川流のゆ
こころの戸っ子のまをいひいひいさる後をま
わらうの店が袖とさる出さる時を
鏡山がさるさうみやうり煙座と元それ小
けりれ人さる柔和人のうらりけいさう
あり中と柔ワがらつておるさうと毎日
のやういゆらぬもこやさがいづとあて

いふねいとい通る事...
あるてわが^{いけ}合を今さ...
でもかろうもといねてい...
ららつてゆれな...
だ入^果それ...
ま...
ア...
ま...
ま...

いしやりと不^い便で...
酒が^果表...
り...
よ...
^冷果...
こ...
果...
ま...

中の人お出あふま〜とラヤさつおてあつて
 お青とより七あふません **風** 大まよ寝むら
 こまらけらそらんあつりいさかうけをうく
 かさげもて抄きやよ

曇水の貸士さうあうらの青

成績妓園待人

春日の あふる あふる あふる
 春日の あふる あふる あふる

うかざんこよまあんせんやうけでおらんあん
 一 **元** あふる あふる あふる
 でおげらんそと積が抄きまんでかうけぞ
 ややくげうがあふふりして〜
三 あふる あふる あふる
 らいに出して抄らんあん〜そのおらんあん
 こ〜かざらへた **果** あふる あふる あふる
 こ〜かざらへた **果** あふる あふる あふる

じくゝ 志て舟ふねのぼりつゝいふ二ちぢめ
らんめんえんやわびいとつなごやうでん
すよ果てんぬ靜まごよあり中たそんくも
ちぢしせんぎうご 三ゆふい茶つをちぢ
ひせうトのい秋つそのらいつんぬよあ
アいれたごりいあごら通みん
とでゆごういせう夏曇日陽えんごうん
とらいらんごうんとよやアゆごういせん

長アイニクおいらんれんあんかも
とらいらんごうんとよやアゆごういせん
長アイヨニ美えんのあらんいニ
これいぢごういおいぢごういかみ
んらもおんておいぢごういよ長
ヲいらんごういまごねいん
せんのらんごういせんもあいぢご
んもあいぢごういおいぢごうい

ハ

ハ

さいごにおもひのりしとあんな
せうよちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
つぎおまじしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ひぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

せうひま **春**おめい入らんごいのあじろは
にむさくしてしちや **春**和らん
あなられんあ あなれん **春** アシこうせか
アひひねりとり **春** アシ **春** アシ
下もぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
とたつせんも **春** アシ **春** アシ **春** アシ
年このあ あなれん **春** アシ **春** アシ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

其のねて思ふ事ありて斗よアね人室
 の二階でももろくぞとておとせぬ
 といふはあつらうが真よ苦勞もあひ
 客の女とのまゝに志くしぬ女高の客
 のこゝろ年をまじりて入るも未だ夫婦
 小なるがうれしう命ももて思ひお
 りん人の子けを思ひよくまひえん
 はまきりぬらううらうらとてんくマアありあつた

てが百人よそ人うま福よきで難長と
 あつてもちくあんののさういふけでん
 ぞ人よ文おされるよ争があつて志中うこ
 ぢよよんよそまあまかきむらうらうら大
 勢の客の中どうもさうありそあね人
 ものぶが物うらあよてもここのね
 人の如き房よあつたあひひらうや我が
 のうんぶりまアね人こゝろい何き

むかづつていひも祿へこと後くせし
 むらりせらりてきしでまよてけし
 〓 ころやアのおしりておんりひて
 ひらりたれをきひのハ舞のち血の泥
 てころづるづのためかみかみか
 ひらりておんりておんりておんり
 中りてりりしておんりておんり
 ねるをいおんりておんりておんり
 〓 のころ

かりれどころららるて起情をりてめりひ
 ちころるなる中ちあふんがまのち
 迷やいひまめ入祿入果ころやアてあ
 何をいひのぞ別條の空ときをたひび
 小志きまころるけ廊より似珠のさねい
 けくあてあもころるてあの中あな
 志るをアある入〓 人もあて押入ひまかめ
 へんその中たころあころあのこと

川

廿六

そろそろてか知るんらあ久□それか
 こころけそり志中御入るまらりまら
 んくますも志願入て死ぬのいきらのとの
 中まに相積まをまをまドやあねんらマよま
 がひひくと種も志ね人仲まの町までもら入まて
 ぞろこん迷まてあがつことまららまるま
 何まひららとりゆの福ま入まままらりまのま折ま
ま良ま多ま積ままらんらりま何ま分まままよまままも

ままま小僧まで今とちろろてろりま客まもは
 ねん時まころわんの似ま味まの度まであまま
 ままららららとまらつてまらまらま
 うけらまら実まがまら人のま振まりままままま
 ままらままらままらままらままらままらま
 こころまちりま抱ままらまらまらままらま
 まらままらままらままらままらままらま
 まらままらままらままらままらままらま

あふきさうやうなこころもあつて
 のちいして今とやアこころぬ尻のうんでおぼ
 んとふ使とあらうかうんあんしとらふみ
 つけおまたよりうあもつやアこそおれお
 うな志とかにあふきを考てくれがなう
 うまうさうゆて静をうりぬ抱もせむん
 の女座れ極あふまの人のわうでもおつよ
 よぶの六昔界のあれ樂と人にあんと行

あふきさうやうなこころもあつて
 のちいして今とやアこころぬ尻のうんでおぼ
 んとふ使とあらうかうんあんしとらふみ
 つけおまたよりうあもつやアこそおれお
 うな志とかにあふきを考てくれがなう
 うまうさうゆて静をうりぬ抱もせむん
 の女座れ極あふまの人のわうでもおつよ
 よぶの六昔界のあれ樂と人にあんと行

どらちとわんチ拾チよちひ二日ニ後ノぐりけりやアど
うちとつとくつてつとつとつとつとつとつと
まじりつとつとつとつとつとつとつとつとつと
月もつとつとつとつとつとつとつとつとつと
ゆふつけツ越ス方ノじノ末ノつとつとつとつとつと
考スつてつとつとつとつとつとつとつとつとつと
ねんノつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
まニつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
せんノつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
まニつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
あのつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
りニつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

くらつひきりの廿二歳を後たよつて
 えんがふ
 けふ外りうのこまやあまのい
 柔まそこのおつこのお波よくあめてくれろ
 今を是もろりいこまよさけんぶが
 てめんがうこつていさおまのい
 おつがめあやアアアアアアアア
 へんもけいさあわなり一サウウめも
 雨のしんあはれとくまのあつこで
 あられ

つてもいありても廿二歳にのりめん
 家親おつたおんぶすえんて
 今よる海の人おあまの
 ありい
 白くまよまのあつた
 くらつひきりの廿二歳を後たよつて
 えんがふ
 けふ外りうのこまやあまのい
 柔まそこのおつこのお波よくあめてくれろ
 今を是もろりいこまよさけんぶが
 てめんがうこつていさおまのい
 おつがめあやアアアアアアアア
 へんもけいさあわなり一サウウめも
 雨のしんあはれとくまのあつこで
 あられ

しつねのいぢのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
うぢのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
しつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
しつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ

て見せしめてくれればいぢのこゝろ
しつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
しつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
しつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
あつてしつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ
しつねのこゝろにちかづいてしつねのこゝろ

い

い

のそと *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
そ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
れ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
か *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
え *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
し *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
め *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*

お *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
く *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
の *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
し *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*
あ *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki* *Shirayuki*

い
い
い

麻今仲の所へ流さん元氣を金一両は染和えん
 お出さんしそりつけらるゝおいでさんにとや
 てめふいしれ三そろやっわんふま書上はれ
 しひ麻アしりお出さんしそり
 多きゆのてららんやまをよそて云人そ
 こそあがらばあはれはに解さる

小鍋文終

梅暮里谷我著

傾城買二竹助道

色男始りあられ後に雲をれ
 小男始りあられ後に解さる

後同廓之癖

けつふてたひよあう、其美
 をつくーあふたをうさる本之

三篇同雲月之程

心もたひひさういっふ程あり
 ちるよは虫をじ隔りやを虫

傾城買猫之卷

女身のうそををうし忘れ
 小女はうさるるあし

白狐通

此の女身の時うさるる方
 の痛とするあひらき本之

契情買言告鳥

つとめのあはれをいふことあり

辛同二層廊之橋

関のうすうすのあはれをいふことあり

商傾城買甲子夜話

甲子の夜はあはれをいふことあり

新契情買中夢之行

夢の中はあはれをいふことあり

版鶴岡花撰帳

あはれのあはれをいふことあり

退之出来仕維る百の求はあはれをいふことあり

戌新版

夢行二編全二冊

ゆめのあせはあはれをいふことあり

梅暮里先生作

同作

甲子夜話二編全二冊

まきのあせはあはれをいふことあり

通氣婦成三橋主人著足長間全一冊

出来

切小きれぬいろ字のうへ
さかるとせうりてきり
とてりまてとくたより

青猫同作小鍋立全一冊

出来

はげしい雲のいそぎをせぬ
のらんあまのいそぎゆひの
若葉屋を序ま外巻のうへ

後物同作多り全一冊禿

近刻

われと人あはれぬまはれい
男はまはれぬまはれぬて
ぬまへまはれぬまはれぬ

情願同小袖全一冊

近刻

つらき書かぬ知ふんま
おしりあつとよんま
らしきあつとよんま

